

授業科目 小児看護学

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	看護
岩田 みどり		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要・一般目標 : GIO】 本科目では、子どもの健康や社会における現状を学び、子どもの権利や保健対策の関連する法規を理解する。さまざまな場における子どもと家族の状況を判断し、小児看護学の基本的知識・技術・態度について修得する。学生は、当日レポート方式(BRD)を用いて学習した内容を整理し、小児看護学の看護実践に必要な能力や子どもと家族のサポーターとしての態度について考察をまとめる。					
【学習目標】 1) 子どもの成長発達についてその特徴を理解できる。 2) 子どもの権利や保健対策に関連する法規について説明でき、子どもの権利を尊重することについて考える。 3) 子どもの免疫の特徴や主な感染症と予防対策(予防接種)について理解できる。 4) 入院中の小児看護学の特徴について理解できる。 5) 外来での小児看護学の特徴について理解できる。 6) 在宅等での小児看護学の特徴について理解できる。 7) 子どもの疾病予防・健康増進へのサポートについて理解できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	1) 子どもの成長発達について説明する。1. 免疫2. 栄養3. 対人関係の特徴について考える。			1	グループワーク
2	2) 子どもの現状と、子どもの権利や保健対策に関連する法規の理解と保育対策などについて説明する。			2	講義
3	3) 子どもの免疫の特徴や主な感染症と予防対策・予防接種(予防接種法含む)について説明する。			3	講義+課題レポート
4	4) 入院中の小児看護学について説明する。1. 入院の種類2. 子どもの反応3. 家族の反応4. 入院中の子どもの安全について5. 臨床の看護師の役割			4	講義
5	5) 外来での小児看護学について説明する。1. 外来の種類と対象2. 外来での子どもの看護3. 検査を受ける子どもへのプリパレーション4. 外来の看護師の役割			5	講義
6	6) 在宅・地域等での小児看護学について説明する。1. 在宅の子どもと家族の状況2. 在宅看護における子どもに対する社会資源3. 在宅等での小児看護師の役割			6	講義
7	7) 子どもとのコミュニケーションについての実際を考える。また、子どもの権利を尊重した小児看護学について考察する。			7	演習+個人課題レポート
8	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		ナーシンググラフィカ 小児看護学/ 小児の発達と看護		メディカ出版	3,600円
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 筆記試験50%+課題レポート40%+出席10%			【履修上の留意点】 学生には、当日レポート方式(BRD)を用いた課題に対して積極的に取り組んでほしい。		